



シャープ社友会広島支部
会報 ひびき 第14号

発行人 山田 順

1面
2面
3面
4・5面
6面
7面
8面

主要記事
春夏秋冬
春の旅行案内・新年会ETC
遠隔地会員は今
HOW DO YOU DO
通信事始物語
我が青春を語る
社友短信・新会員紹介

春 夏
秋 冬

時間への挑戦

社友会広島支部長 山田 順

六十代で定年を迎え、自分一人になった時ふと、この半世紀自分は何をしてきたのだろうか、そこには何があったか、少し不安になる。その一寸の心の隙をねらって、一気に老いを感じ虚脱感を覚える。こんなことはありませんか。

人生八十歳時代に入り、生涯学習といわれて久しいが、人にはそれぞれ年齢に応じた学習があります。

私の住む街にも、六十歳以上の希望者で毎年、熟年大学が開講されています。昨年度も十八講座、七〇〇名が参加し本年三月三三〇名が卒業しました。

私も、十年余り在籍(俳句)しておりましたが、さて卒業となると、句友との交流の途切れ、生活リズムのくずれ、空白時間のもてあまし等、同じ思いの卒業生二〇名で引き続き、同好会を作ろうということになりました。平均年齢は、七十五歳を上回るでしょう。

めまぐるしく価値観の変化する社会の中で自分を見失うことなく、人間らしく生きるためには、生涯かけて学び続けることが必要だと思えます。

同じ趣味を嗜む者が親睦をはかり、自然と生活を愛し、明るくおおらかに、日々を楽しみ暮らすことを目的に集まろうと、皆張り切っています。

社会の変化と共に、高齢者のあり方も、変わりつつあります。二〇一五年には、四人に一人が高齢者になります。少子化、高齢化の進行で年金、医療、福祉の見直し等高齢者には、益々厳しい世の中になってくるでしょう。新しい世紀は、高齢者の自助自立と社会参加の時代です。

熟年パワーを地域社会に役立て、積極的に意欲ある高齢者が必要です。

平成十二年度 社友会広島支部総会
紅葉会総会

日時 5月19日(金) 午前11時開会
場所 ラポール広島
主要議題 平成11年度経過報告
平成11年度会計報告・監査報告
平成11年度同好会活動報告
平成12年度事業計画
支部会則一部改定

・正午より昼食懇親会を予定しています
・駐車場は第3工場従業員駐車場になります
改めて、開催のご案内と出席可否の照会をいたします

そのためには
『今日もまた、何することもなく終わった』
ではなく『今日は何々をしよう、今日のスケジュールは...』等など、時間に挑戦すべきです。

時間の奴隷にならないように

ミレニアム新年会
今年も会員の健勝と多幸を

今年から『宴』を名称から外した新年会は昨年度新設の、企画担当幹事の準備から始まりました。
「清興」てなんだ、というような話もありまして、従来と中身の違う行事にしようと考えこれ検討し、進行・運営も含め新鮮さも付けました。
今年の参加者は、合計四〇名で、少し物足りなさが残ります。

紅葉会主催 社友会協賛
春の日帰り旅行 えびグルメとお花見

とき 4月8日(土)
 出発 第3工場 Am 8:00
 やきにく八楽前 (R486沿/JR八本松駅) 8:10
 散策 防府天満宮
 毛利邸庭園
 ザビエル記念聖堂
 瑠璃光寺・五重塔
 昼食 割烹 海鮮(tel 0835-22-4490)
 帰着 Pm 6:30 (予定)



新年会参加の皆さん

それでも、遠くから江川さん・小林さん・片桐さん・小倉さんが参加され、広島市内からも、嵐さん・小林さん・児玉さんなども参加いただきました。
鬼も笑う来年の新年会は、新年を迎え今年も健勝に、そして会員相互に多幸を期する機会として、ご参加をお願いします。



事業本部で庄野総務部長と懇談する檜原九州分会長(写真中)と山田支部長 2月25日総務部

檜原九州分会長来広

二月二十五日、檜原さんがひよっこり来広。私用もあつてのことだそうだが、九州分会の「支部昇格」や当面の社友会運営について支部長と意見交換。その後、挨拶をかねて事業本部を訪ね、総務部長と懇談した。
このほか、本部会員でかつて、広島で工場長として在任した春山丈夫さん(No.250)が二月十日に来広。
当「ひびき」に寄稿したいとの意向があつた由。そのうちに、いにしえの思い出話を掲載できるかも。

遠隔地会員は今

多様な価値観を持つて

上総 保さん

No.1203

広島の地を離れて早や二年、すっかり年金生活も身につつき、歴史的風土に囲まれたここ奈良の王寺で、妻や娘と平穏なマンション生活を送っている。

息子夫婦にも、昨年末二人目の子供が誕生して、いいおじいちゃんぶりを發揮している

退職当初は、もう一度ビジネスの世界へという気持もあったが、仕事一途に四十年、ある意味で片寄ったせまい世界に生きてきた自分に気がついた。

今は健康なうちに、もっと違った価値観をもって、いろんな世界に首をつっこんでみたくなってきた。

日本の良さや歴史を知るための、日本各地への旅行、最近では飛鳥の歴史に魅力を感じ機会ある毎に出向いている。



上総さんご夫妻（青森旅行にて）

社友会広島支部会報“ひびき”原稿募集

原稿内容

- ・行って来ました
広島県内・近郊の温泉（日帰り入浴）体験記。紹介。
- ・我が青春を語る
現在継続掲載中。あなたの青春とシャープをダブらせて。
- ・遠隔地会員はいま
現在継続掲載中。広島県外在住者に限る。
- ・“××”事始物語
現在継続掲載中。職場は勿論、あなたが初めて体験した“事始”記。

一方、少しは社会の為に役立とうと、自治会長を引き受け、設立と運営にたずさわると共に、今年は環境問題や介護問題へも参画してきたらと考えている。
充実した人生だったと思える日がくることを願って、精一杯これからも生きて行きたい。

パソコン

ワイがやで時間を忘れ
月1の例会研修

昨年の支部総会の、懇親雑談からなんとなく、雰囲気盛り上がり、七月に発足。以来、月に一回例会を開き、とりあえずマシンの操作を基準に、レベル向上を図っている。

もともと、パソコンを始めた経過や、やってみたい動機は様々で、パソコンとの付き合い方も同じでないから、何をするにも複数の手段手法が披瀝され、これが滅法面白い。もっとも、はるかな高次元の大ベテランが



広島パソコン同好会の会員の皆さん

囲碁・将棋



浅島さんと対戦する木船さん。浅島さんを後ろから指南するのは相馬さん。 3月24日社友会事務所

ボーリング

第十回記念大会

車角さん 200 アップをマークし優勝

一月二十二日、参加者十三名(社友会・紅葉会十名、一般三名)で第十回記念大会を開催。第一ゲームは、車角さんが大会初の204点をマークし、二位の西尾さん172点を大差でリード。
第二ゲームに入っても、車角さんの勢いは止まらず、二ゲーム計381点の実スコアで

メンバーでないのも、会合を楽しくしているのかも。
現在、同好会会員は、発足当時のまま9名で、目下会員募集中です。また、体験研修も例会時に自由参加で出席可能です。
四月例会は、十七日(月)に行います。

次に第一回から今回までの優勝者を紹介します。

二位以下を大きく引き離して、ダントツの優勝。
準優勝は、第二ゲームで調子を落とした西尾さんに代わり、今回の初参加者に与えられたHDCPを有効に活かして健闘した相馬夫人(二ゲーム計365点)でした。



第十回記念大会参加のみなさん 賀茂ボール

- 第一回優勝者 山内 孝雄 三三三三三
 - 第二回優勝者 浅島 治 三二六六六
 - 第三回優勝者 川田 美子 三六二二二
 - 第四回優勝者 車角 裕規 三六五五五
 - 第五回優勝者 車角 裕規 三三五五五
 - 第六回優勝者 内山 真美 三三〇〇〇
 - 第七回優勝者 出口 昌孝 三八五五五
 - 第八回優勝者 細井 博文 三六九九九
 - 第九回優勝者 吉岡 秀卓 三三三二二
 - 第十回優勝者 車角 裕規 四〇〇〇〇
- 【注】得点はHDCPを含む2ゲーム合計

ゴルフ

平成十一年度最終戦

二ヶ月の自主トレ成果あり？

今年の初ラウンドは、年度では最終戦。一月、二月の自主トレ期間を置いて各自が年間の反省を生かした、久しぶりのコースでした。実際の、トレーニングの効果の程は同だったのでしようか。

西尾・広瀬・野尻の3氏も、初参加や新入会で登場、現役時代の成果を継続しているかに見える、楽しいプレイでした。

ゴルフ同好会は、会員数25名を超えるものの、年間を通じて体調不良を理由に、休場選手が3名あり、早期に体調回復をいただき体力と技量の向上に、楽しみながらいそしんで欲しいものです。



左から広瀬さん(準優勝)・片山さん(優勝) 佐々木さん(BB) 第28回コンペ入賞者

ゴルフは、メンタルなスポーツです。生じた結果は自分の責任で、自然とともに、そして自然を相手とするスポーツです。始めれば、理解できる幅の広さ、奥の深さが実感できます。

平成十一年度最終戦を含め、年間実績から新年度ハンディキャップを設定し、四月度コンペより適用します。

次回(第29回)コンペ 朝日ゴルフクラブ広島 四月十四日(金) 朝日ゴルフクラブ広島

釣

不漁は潮か技術か、あるいは天候か 又も期待外れで次回は！

【釣行】三月十四日(木) 関係無いが当日はホワイトデーだった。

【出港】広島県倉橋町重生港。午前六時。

【釣舟】幸栄丸。小平船頭。

【ターゲット】めばる。

【漁場】山口県東和町沿岸。

【釣餌】海えび(活)

いかなご(冷凍)

白魚(活)

【釣人】新田リーダー・佐々木・小幡・車角

その他会員外二名

【船上昼食】牡蠣めし。お茶、らっきよ、沢庵つき。

順位	参加者	par
1	片山	-1
2	広瀬	+4
3	杉山	+4
4	相馬	+4
5	森本	+5
6	大和	+6
7	車角	+6
8	山内	+7
9	出口	+7
10	徳永(文)	+9
11	小林	+12
12	松浦	+12
13	嵐	+16
14	徳永(幸)	+17
15	河上	+18
16	野尻	+25
17	佐々木	+30
18	西尾	+32
ニアピン		出口・小林

【釣果】あえて記さず。ただし、向こう三軒両隣には挨拶できた。

【目の保養】白亜の灯台の向こうの、水平線に登った黄金色に輝く太陽。早起きは三文の得。

【番外】釣餌の白魚が余った。若干名が自宅で、「おどり」や「卵とじ」で食したそう。噂によれば、珍にして美になると伝えられる。

【次回釣行】四月二十五日(火)に予定。狙いは、やっぱりメバルだ！

かさご【笠子】カジカ目の海魚。体長約20cm。メバル型で、背鰭及び臀鰭の棘は強い。美しい紅色ないし黒褐色で、複雑な斑紋がある。胎生。国内各地に産し、美味。ガシラ。アカメバル。アンボンタン。

めばる【眼張】カジカ目の近海魚。体長約20cm。灰赤色・灰褐色・灰黒色など様々で、不明瞭な五、六条の黒色横帯がある。眼が大きい。日本に普通産し、美味。アカメバル。キンメバル。クロメバル

広辞苑 第二版補訂版第三刷より転載

【前号のあらまし】
 宮田さんは決断した。模索の時間は終わったのだ。急いで新しいシーズを探し、大木に育てねばならない。
 昭和五十六年度の売上が、初めて一〇〇〇億円を超え、一つの節目をこえたことから誰もが前途に明るさを感じていた。その中で、宮田さんは杉山さんと呼んで脱オーディオを命じた。昭和五十七年七月、緊プロ「A173」はスタートした。

“通信”事始物語

杉山 健さん
 No.1133



第二回 電話機への道のり

民生機器と業務用機器との品質基準と、その違いがなんとか掴め掛けた頃、宮田さんから欧州と米国の視察を誘われまし。いよいよ、情報通信機器分野への参入にあたって、そのテーマを選択設定する段階に至った、との思いで新たな緊張を覚えました。

当時、米国ではAT&Tが分離分割を終え、量販店の店頭では家電商品の売り場で電話機が売られる、いわゆる通信の自由化が始まっていました。

日本では、NECが唱えたC&Cがようやく現実化しつつありましたが、電話機は未だ、電電公社の独占化のもとにあり、店頭販売は認められていませんでした。そんな状況の中で、得られた方針は『米国向けの電話機の開発に取組む』でした。ただし、『最初は、電話機メーカーへのOEM供給からスタート』とし、営業面での不透明な環境のもとでの、開発着手でした。

“電話機作りは、経験とノウハウが必要”とする宮田さんのスタンスは、その後の経過の中で、宮田さん固有の独特のセンスから生まれたものと実感したの。GE社との交渉が始まってからでした。GE社は、当時すでに極東で電話機を

調達していましたが、品質とコスト面で満足しておらず、さらに強力なパートナーとしての、OEM先を探しているとの情報があり、いわば千載一遇の機会だと思つたものです。

しかし、実際は新たな困難の始まりでした。定石どおり、プレゼンテーション資料を作成しGE社極東オフィスを訪問し売込みを開始しました。いただいたミーティングの機会では、普段聞きなれない電話機独特の用語が飛び交い、スペックリストでは、手持ちの測定機では測定できない項目が記載されていました。

これまでの、オーディオと全く異なる知識・技術が必要で、分厚い通信ハンドブックや関連専門書を参考に、まず電話回線の勉強を始めたときは、新入社員に逆戻りした心境にもなりました。

一方では、宮田さんから『自分が判らなければ、部下を引っ張れないぞ』と叱

咤され、悔しい思いもしましたがこの時の経験が、後日の類似条件下での開発業務に大きく役立ってくれました。



GE社向けファーストモデル 2-9110

米国内向けのAタイプは1984.5から1986.7まで生産され累計270千台が出荷された。またカナダ向けBタイプが'84.11から生産され累計50千台が出荷された。
 つづいて、2-9112
 2-9114
 2-9111
 などモデルチェンジとシリーズ化で、通算生産台数は60万台に達した。
 (この項、詳細次号)

サンプルセットと見積を提出しGE社の判定を待つ段階になりました。古くから、「果報は復て待て」と云いますがそんな悠長なことはできません。我々は初挑戦でも競合相手は、何らかの実績がある筈。最低でもイーブンに持ち込める方策はないものかと、思案を重ねました。宮田さんは、さりげなく『佐々木副社

長にお願いしてみたら。』

「我々は、緊プロで電話機の開発を担当している。何としても商談を成立させ広島での生産を立ち上げたい。是非とも力添えを戴きたい。」こんな要旨の親書で、佐々木副社長にお願いしました。

ほどなく、「東京で、GE社の千葉極東総支配人と、電話機部門の村上事業部長とに逢うことにした。同席するようにな。」とのご返事があり、宮田さんには報告に併せ出席をお願いしました。

宮田さんの反応は、私の予想と違っていました。『私は行かない。これは君の仕事だから、君が行きなさい。もし必要なら、岡田君(当時海外担当副事業部長)に同行を頼みなさい。』

宮田さんからは、このときも、やりかたは教えるが実際にその仕事を担当する者が、自分の責任として解決するという、仕事の進め方を教えられました。

GE社との会談は、当社の取組み状況を報告した後、佐々木副社長の次の発言ですべてが決まりました。

『全社を挙げてこの開発を支援します。この商品はシャープに任せて下さい。』
 既にGE社と取引があり、GE社の前衛モデルで実績のあるF社との競合から一歩先んじたこととなり、安堵とともに佐々木副社長の絶大な信頼度に改めて敬服したものでした。

昭和五十九年一月、米国のGE本社で須川本部長(当時の音響システム事業本部長)とGE社との間で正式に契約書に調印され、シャープ第一号の電話機の本格的量産設計が開始されることになりました。

(以下次号)

我が青春を語る

私を育てたある経験

広兼 惟央さん

No.1005



【ブローグ】

昭和42年に入社して、七年ほどの係長時代に今の今まで、私に影響を与えつづけた体験を話してみたい。

当時、本社工場の生産管理部で、外注管理を担当していたが、取引先の協力会社の1社が、現在ならどこかでいつでも起こりそうな、資金繰りがピンチに至ったという、現実的な問題が発生した。

当時のシャープとしては、生産の継続そして主要取引先の倒産を喧伝される危険回避、また約40名の従業員対策など、支援する方向で対処することになった。

その支援策として、生産管理、原価管理、生産の三部門からそれぞれ1名を出向させ経営責任者、経理責任者、生産責任者とする事となり、3名が派遣された。

【苦難に身を投じて】

この3名の苦勞は大変なものだった。一年が経過した段階で、出向メンバーの交代が行われ、生産責任者は据置きし経理責任者と、私を経営責任者とする新たな2名が派遣され

予測を超えた、苦難が始まった。

もともとの、担当業務は生産管理部での外注管理であり、その中で二次加工取引先の「見積書作成」「支払管理」を担当していたが、経営責任者という社長代行業務は、まさに知識と時間と、そして体力、さらに経験を要求される、外から窺い得ない業務だった。

専門部署を配置し、専任スタッフを擁した企業であれば、社長はもっと高次元な企業経営に専念できるのかも知れない。

私の場合は、資金繰りのための金融機関との折衝、税務署や社会保険事務所との接触、退職者補充のための新聞折込チラシの作成と新聞販売店への持ち込み。従業員の暴力事件があったり、果ては資産の横流し事件が発生したり、様々な局面での対応を経験した。

そんな毎日の中で、思ったものだ。今の自分の置かれた立場や、責任の重さから見ると普通のサラリーマンが、なんと楽な稼業なのか。世の多くの、中小企業経営者ほど苦しんでいる仕事をしている人は、いないのではないか。

特に、運転資金に窮したとき、トップが走

りまわるようになる、他の課題に全く手を付けられず、ますます悪循環のスピードが加速し、前向きなことは何もできないという恐ろしい現実が、その当人には見えなくなる。

【またしても初体験：会社清算】

そんな日々が続いて一年が過ぎ、なんとか持ちこたえて資産と負債がほぼ、釣り合う経営状態になった頃、他の協力会社との合併問題が浮上した。

吸収される立場から見れば、迷惑はかけられないとの思いがあり、従業員の扱いを含め法律上の清算手続きを、始めての体験をすることになった。

ミスは絶対無いようにやれ。完璧に行うとしても、ゼロからのスタートだった。ひたすらに教えを乞うことが、モレやミスを予防する手段に思え、人・機関・書籍に実務上の情報を求めた。

会社の清算は法的に完了し、新会社に従業員は移籍し、シャープからの受注も継続して再出発できたのだった。

【経験をいかして】

こうした経験は、その後の私の人生に大きく影響したと思う。

- ・単なる経験に終わらせることなく、スキル向上のため、中小企業診断士の資格取得の意欲に繋がった。

- ・資格を取得し、新たな世界が広がったがなお不足する経理知識を自覚し、日商簿記2級検定に挑戦、取得。

- ・昔から、理論武装なる言葉があるが、経験に裏打ちされてこそ、意味があると思えるようになった。

社友短信

◆山口 寿栄信さん

お医者さんにも勧められて、ウォーキングを日課にしたそうです。片道3km、往復6kmを50分から60分をかけて、一汗流すそうです。お住まいの、福山市春日台は高台にあり、行きはよいよいで、帰りはチトしんどいが今が頑張りどころと、続ける決意のようです。

☆☆☆☆☆

◆井上 宣邦さん

仕事につきました。インターフォンなどで、ご存知のA社に、技術顧問ということになって働いています。原則として、第二、第四週の週五日、名古屋に滞在。宿舎はホテルですが、特に苦勞は感じていません。自宅から出向くとき、一週間分の着替えを用意し、また持つて帰ります。朝夕の食事もホテルで済ませ、出張気分です。現在のところ、月の半分を過ごしています。

☆☆☆☆☆

新会員紹介

住所・電話番号は個人情報保護により削除しています。



野尻 昭男さん
会員No. 1611
739-0044



北川 晋さん
会員No. 1612



広瀬 勇さん
3月末現在準会員(正会員手続中)



社友会会員章
追加入荷

ご希望の方は
細井幹事宛ご連絡
ください

来る5月19日の
支部総会でも受付
します。

編集後記

◆ひびき平成十二年春号をお届けします。出掛けましょう。春です。と花を求める誘いが多いのも、この季節です。

◆しかし、今年は特に花粉の飛散が多いそうで花粉症の方は、うれしくない春のようです。

◆社友会広島支部の、総会が五月に開かれ新年度の事業計画が討議されますが、広報担当としては、今年度と同じく年四回の発行を提案しています。

◆基本的に、発行の配分としては

十二月末日 冬号(新年号)

四月上旬 春号

七月上旬 夏号

十月上旬 秋号

を一応の予定としたいと思っています。今回広報担当を一年経験し、定期刊行も楽じゃないうと思ふものの、折角の広報紙を情報の交換及び、伝達の一助となれば望外の喜びといえましょう。